

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	1			音楽	2

年間指導目標

生涯にわたって音楽を愛好する態度を育み、高めていく  
読譜力の基礎を身に付け、様々な楽器の基礎的な奏法を身に付ける

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	・アルトリコーダーに親しもう ・ギターに親しもう	・楽器の基本的な奏法を身に付ける	・読譜力と演奏能力を定着させる
	後半	・アルトリコーダーの上達を目指そう ・ギターの上達を目指そう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、表現の工夫をする	・読譜力と演奏能力を定着させ、強化する
2	前半	・混声三部合唱にチャレンジしよう	・混声三部合唱で美しくハーモニーを表現する。歌詞の意味を歌で表現する	・仲間とハーモニーを作ることの楽しさを味わわせる
	後半	・楽器でアンサンブルしてみよう	・自分で身に付けた技術を他者に教えたり、共有することで理解を深める	・他者とアンサンブルする楽しみを味わうことで音楽への愛好心を高める
3	-	・音楽史を学んだ上で、主要作品を鑑賞し、音楽の美しさを味わおう	・音楽の美しさや多様性を味わい、自分なりに言葉で表現する	・音楽の美しさや多様性を味わい、音楽をより愛好する態度を育む

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	1			音楽	2

年間指導目標

楽しく美術の学習に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	色の性質	絵の具の3原色	ポスターカラーの混色法、着色の仕方を理解する
	後半	レタリング	明朝体、ゴシック体、等	伝える相手と内容を考えて発想を広げ、形や色を工夫して文字をデザインする。
2	前半	自然物からの構成	単純化による個性の強調、デザイン	感じ取ったことや考えたことを基に、絵に表す
	後半	篆刻	自分の名前をデザインし、篆刻で表現	材料や用具を正しく使用し、印の特性を考え、工夫して表す
3	—	鉛筆デッサン	幾何形体（六面体）、等	モチーフの特徴を捉え、美しい形を見いだす。伝える相手と内容を考えて発想を広げ、形や色を工夫して文字をデザインする。

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	2			音楽	1

年間指導目標

中1での学習をベースに生涯にわたって音楽を愛好する態度を育み、さらに高めていく  
読譜力、表現力をさらに高めていく

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	・アルトリコーダーの上達を目指そう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、なるべく幅広い音域を使用し、表現の工夫をする。 中1での学習を土台に、演奏をより効果的にする工夫をする	・読譜力と演奏能力を定着させ、強化する。リコーダーの全音域を演奏できる
	後半	・混声三部合唱にチャレンジしよう	・混声三部合唱で美しくハーモニーを表現する。歌詞の意味を歌で表現する	・仲間とハーモニーを創ることの楽しさを味わわせる
2	前半	・ギターの上達を目指そう	・これまでの学びを土台にさらに難しいコードにチャレンジする	・一般的なコードを習得し、歌や楽器の伴奏ができる
	後半	・混声三部合唱にチャレンジしよう	・混声三部合唱で美しくハーモニーを表現する。より多彩な表現を目指し、楽想記号などに注目させる	・楽譜をより深く読み込むことで、音楽の表現を広げる
3	—	・音楽史を学んだ上で、主要作品を鑑賞し、音楽の美しさを味わおう。クラシック音楽だけではなく、ポピュラー音楽にも触れよう	・音楽の美しさや多様性を味わい、自分なりに言葉で表現する	・音楽の美しさや多様性を味わい、音楽をより愛好する態度を育む

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	2			音楽	1

年間指導目標

楽しく美術の学習に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	想像画	シュールレアリズム手法のオートマティズムを用いる。	アイデアスケッチを繰り返す。
	後半	想像画	実際の事物の形、色彩に留意する一方で想像上の事物を自由にアレンジしてみる。	画集や画像を参考資料として用いる。
2	前半	キャラクター（マーク）デザイン	アイデアスケッチ	ご当地に限らずいろいろな地域で描いてみる。
	後半	キャラクター（マーク）デザイン	タブロー（完成作）に至る	選択したものに彩色。
3	—	鉛筆デッサン	造花使用	比率と立体感、空間間を学ぶ

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	3			音楽	1

年間指導目標

3年間の総まとめを行い、生涯にわたって音楽を愛好する態度の完成を目指す  
ジャンルにこだわらず様々な音楽に触れることで視野を広げる

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	・アルトリコーダーの基本的な技術を生かし、より複雑な表現にチャレンジしよう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、表現の工夫をする	・読譜力と演奏能力を定着させる。高音部譜表以外も読めるように努力する
	後半	・ギターの基本的な技術を生かし、より複雑な表現にチャレンジしよう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、表現の工夫をする	・読譜力と演奏能力を定着させる。高音部譜表以外も読めるように努力する
2	前半	・混声三部合唱の表現を高めよう	・混声三部合唱で美しくハーモニーを表現する。歌詞の意味を歌で表現する	・仲間とハーモニーを作ることの楽しさを味わわせる。これまでの学習を土台により深い表現に挑戦する
	後半	・色々な楽器を選択し、器楽アンサンブルに取り組もう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、表現の工夫をする。管楽器や打楽器を組み合わせより多彩なアンサンブルを目指す	・読譜力と演奏能力を高め、色々な楽器で合奏する能力を養い、生涯にわたって音楽を愛好するきっかけ作りを意識する
3	—	・音楽史と他の科目の関連性を理解した上で、主要作品を鑑賞し、音楽の美しさを味わおう  ・日本及びアジア諸国の音楽に触れ、音楽の世界を広げる	・音楽の歴史と人類の歴史の相関性や作品の美しさや多様性を味わい、自分なりに言葉で表現する	・音楽の歴史と人類の歴史の相関性や作品の美しさや多様性を味わい、音楽をより愛好する態度を育む

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
中学	3			美術	1

年間指導目標

楽しく美術の学習に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	建物と風景	想像上の建物を描く	遠近法の基礎を講義。
	後半	建物と風景	建物と風景を組み合わせる	実在感にこだわらず遠近法の基礎が理解できるよう。
2	前半	平面構成	実際の事物を元に（デッサンから）	構成力を養う。
	後半	平面構成	彩色	色彩理論（明度、色相、彩度）をもとに。
3	—	鉛筆デッサン	造花を描く	比率と立体感、空間表現を学ぶ。

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
高	1	普通	芸術	音楽	2

年間指導目標

中学での学びを生かし、より芸術の深みに触れる  
生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	・アルトリコーダー、木琴、鉄琴、ギター、ミュージックベルなどの基本的な技術を定着させ、表現を工夫しよう	・楽器の基本的な奏法を身に付けた上で、表現の工夫をする	・読譜力と演奏能力を定着させる
	後半	・日本語以外の歌曲に親しもう	・中学での歌唱を土台に、諸外国の音楽に触れる	・歌うことの楽しさと、音楽の多様性を感じ取らせる
2	前半	・アンサンブルにチャレンジしよう	・さまざまな楽器や歌唱を用い、仲間と音楽を作る楽しさを味わう	・仲間と音楽を作ることの楽しさを味わわせる
	後半	・日本語以外の歌曲を歌いこなそう	・1学期の歌唱を土台に、外国語の歌唱能力を高める	・歌うことの楽しさと、音楽の多様性を感じ取らせる
3	-	・音楽だけではなく、様々な芸術との関連性を学ぶことで、芸術の価値をより味わおう	・音楽だけではなく、美術など様々な芸術との関連性を学ぶ	・音楽だけではなく、美術など様々な芸術との関連性を学び、音楽以外の芸術にも親しむことで、豊かな人生を歩む一助とすることを旨とする

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
高校	1		芸術	美術	2

年間指導目標

造形表現の基本を学びながら、観察、判断力から応用、考察を学ぶ

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	屋内風景	想像上の建物内部を描く	遠近法の基礎を講義
	後半	屋内風景	彩色 建物と庭を組み合わせる	実在感にこだわらず 遠近法の基礎が理解できるように する
2	前半	平面構成	色相、彩度、明度に留意した 色彩構成	構成力を養う
	後半	想像画（シュールレアリズム）	アイデアスケッチ	重力、物の大きさに拘らず スケッチしてみる
3	—	想像画	様々な技法（ドロッピング） （スパッタリング） （コラージュ）	丁寧な塗りを心がける。 完成に向けての描きこみ。

中高	学年	コース	教科	科目	単位数
高校	1		芸術	書道	2

年間指導目標

書道の古典の臨書を通して表現の多様性を学び、それに基づいて自己の表現力を培う。芸術を尊ぶ心を養う。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前半	書の芸術性、書の美を求めて。楷書の学習。	九成宮醜泉銘、孔子廟堂碑、雁塔聖教序の鑑賞と臨書。	三種の古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、楷書の基本的な用筆法を習得する。
	後半	楷書の学習。	鄭羲下碑と牛橛造像記の鑑賞と臨書。	両古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。
2	前半	行・草・篆書の学習。	蘭亭序の観賞と臨書。 蘭亭十三跋の鑑賞と臨書。 楷書と行書の比較。 篆書と草書の表現学習。	規範となる行書を生み出した王羲之の書道史上の重要性を理解する。趙孟頫の蘭亭序の学習と態度と成果を理解する。
	後半	隸書の学習。	隸書の特徴。曹全碑の鑑賞と臨書。木簡の鑑賞と臨書。	基礎的な隸書の学習により、隸書の特徴を理解し、用筆、運筆、結構法を習得して表現力を高める。
3	—	書道作品制作。	楷書・行書・草書・篆書・隸書・仮名を素材にして、自由に書く。	自分にしか表現できない書作品を制作する。